

まんまんちゃん ニュース



株式会社 高田
大聖寺永町38の1
☎ 72-1275
第21号 平成29年春

みきおちゃんご挨拶

少しずつですが、寒さも緩んで春の季節になり始めました。私はよく散歩をしているので、季節の移り変わりを全身で感じています。冷たい風が暖かくなり、草木が芽吹くようになると小鳥たちもさえずり始めます。川沿いの道を歩いているだけでも、様々な自然の生命の輝きを確認出来ます。ただ、へびとかもいますので、散歩の際にはご注意ください。私は昨年、散歩中にハチに刺されました。かなり痛かったです。これから色々な注意しながら、歩くことを楽しんでいこうかと思っています。



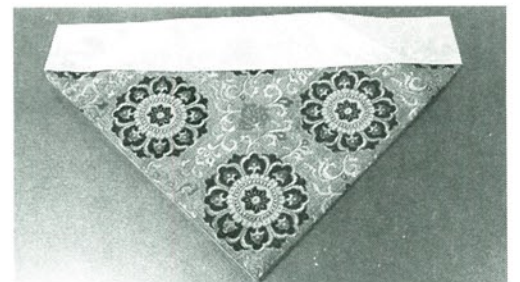
探検チョロチョロぼくのまち



大聖寺菅生石部神社の前にある小さな祠。「富樫の馬塚」と呼ばれ古くから門前でお祀りされています。言い伝えでは室町時代に大聖寺で吹雪にあった富樫三郎が動かなくなった愛馬を誤解から切り殺して埋めた場所と伝わっています。難を逃れ冷静になった富樫代はそのことに気づき愛馬をねんごろに吊りました。祠の横に説明文があるので、ぜひ足を運んでみてください。地元の方にお話を聞いたところ、昔は今よりも神社寄りに建っており、門と囲いのあるもっと大きな祠に祀られていたそうで、数十年前の道路の拡張で今の場所に移動しました。その際には菅生石

部神社の神職に祝詞を捧げていただいたとか...

この辺りは古地図が残っているため、遠方在住の方(海外からも)が大聖寺出身の先祖のルーツを訪ねて来るそうです。歴史満載な大聖寺ですね。



なるほど!ザ・おくり道 仏具の紹介～ 打敷(うちしき)
打敷はお仏壇の中に飾る敷物です。宗派により違いもあります。浄土真宗のお仏壇では卓から少し垂れる幅の逆三角形の「三角打敷」を使用します。その他の宗派では卓と同じ幅の四角形の打敷を使用します。打敷の由来は、元々はお釈迦様が生きておられた頃、高座の上に敷かれたもので、お釈迦様が亡くなられた後、仏像の前にある卓の上に敷かれるようになったと言われています。ほとんどの家庭では年中打敷を使用されていますが、本来打敷とは正式な仏事に使用する仏具ですので、普段は敷いてなくてもよいものです。季節により冬用、夏用と使い分けたり、又故人の命日から49日まで白無地の打敷をかけます。正式ではありませんが打敷を裏返してかけることもあります。以外とツミヤ汚れが付くものなので、法事の前などには打敷が汚れていないか確認してみましょう。汚れがひどい場合は打敷を買い替えて、見慣れたお仏壇の雰囲気を変えてみるのもよいでしょう。
※東本願寺出版部発行の「真宗の仏事」を参考にしました。

編集後記

タカダの「家族葬ホールファミリーア」の控室リニューアル工事が完了しました。お客様にとって使いやすく、くつろぎやすいお部屋になりました。見学は随時受付中です。又、ご相談サロンでの事前相談や葬儀後のご相談なども随時受け付けております。些細なことでも気になる事がございましたら、お気軽にご来店下さい。
アドレス <http://www.takada-sougi.co.jp> FAX 72-1265

